

	学校名: 埼玉県立所沢北高等学校	
	氏名: 上田祥子	● 実践教科等: 国語総合
		● 時間数 : 6時間
THAILAND	[担当教科: 国語]	● 対象生徒 : 1年4組
		● 対象人数 : 41 人

1 単元名

国際的な課題(SDGs)について調査し発表する。

2 単元の目標

- ・国際的な課題(SDGs)について理解し、それについて論じられた評論を正確に読解する。【批判的に考える力】
- ・自ら課題を発見する力を養う。【進んで参加する態度、未来像を予測して計画を立てる力】
- ・効果的な言葉を用い、他者に自身の意見を伝える。【批判的に考える力】
- ・他者の意見を理解し、それについて考察する。【多面的、総合的に考える力、他者と協力する態度】
- ・学習を通しての自身の変容を言語化する。【批判的に考える力】
- ・自身の身近な問題意識や日々の学びと地球規模の課題との関連を考察し、それを相互に発表し合うことによって、様々な課題に目を向け、主体的に行動することについて考察する姿勢を獲得する。【つながりを尊重する態度、未来を予測して計画を立てる力】

3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る | 2 子供の多様な考えを引き出す |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための材料を見極めて提供する |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る | |

4 単元の指導について

(1)教材観

評論Ⅲ「生物多様性とは何か」福岡伸一

本単元では地球規模の課題に対して問題提起、提言が行われている良質な評論である本教材を読解し、まず筆者の主張を正確に理解したうえで、その主張がSDGsとどう関連しているのかを考察させる。そのうえで、自らが問題と感ずることを普段の生活の中から発見し、それにまつわる画像をもとに、その問題について、わかりやすい言葉でプレゼンテーションできるよう表現の基礎をサポートしたい。またその課題がどのように地球規模の課題とつながってくるのか繋がりを意識する姿勢を獲得させられるような構成を検討した。

本単元を通して、テキストを正確に読解する力、課題を発見する力、表現する力、国際的な課題に目を向ける素地、自身のキャリアと国際貢献を関連付けて考える姿勢を育てたい。

(2)児童生徒観

本年度新設された理数科一期生であり、一年生の他のクラスよりも一単位少ない4単位の授業を行っている。国語に対して苦手意識を持つ生徒も多いが、常に前向きに積極的に授業に取り組む生徒が多い。他者とコミュニケーションを取ることを苦手とする生徒が一定数いるがそれを周囲がサポートし学び合い支え合う雰囲気ができている。将来サイエンスの分野への進路、キャリアを志望している生徒に対し、社会的、国際的視点を獲得させたいと考えている。

(3) 指導観

タイでの研修の中で、日タイの生徒同士の交流に参加し、日本の生徒のプレゼン発表を観る機会を得ることができた。しかし、その発信力の乏しさに衝撃を受け、問題意識を非常に感じ、生徒に「発信する力」を獲得させたいと考えこのような単元構成を考えた。

募金や寄付、ボランティア。それも大変すばらしい行動であるが、生徒一人一人の問題意識、日々の学びそして進路実現が今後のサステナブルな社会に寄与、貢献していく可能性に気づかせ、自身のキャリア形成に対する前向きな姿勢や、社会貢献に対する志を涵養できるような指導、実践が行えるよう心砕いた。

5 評価基準

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	自分の考えを適切な言葉で表現しようとしている 他者の意見を傾聴しようとしている	相手の考えや異なる考えを尊重し、自分の考えを深める。 自分の考えをまとめ適切な言葉で表現できる。	相手に分かりやすく伝わるよう工夫することができる。 相手の意見の良い部分、改善点を的確に指摘することができる。	自身の意見を補完する資料を適切に用いて、論理の構成を工夫できる。
評価方法	・机間指導における観察・プリント・発表・レジュメ			

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	日本の国際協力と国際的な課題	・日本の開発援助や世界的課題に興味を持つ	・タイにおけるJICAの事業を例として示し日本の国際協力の在り方について知る。 ・現在世界が抱える諸問題および国連の示している17のグローバル目標「SDGs」について学ぶ。
2～3	国際的な課題について書かれた評論を正しく読解する。	・テキストを正確に読解し筆者の主張を理解する。 ・筆者の問題意識が「SDGs」のどの分野に該当するか確認する	教材の読解を通して、生物の多様性が失われることが地球環境に及ぼす影響知り、筆者が「生命観と環境観のパラダイムシフト」の必要性や「分際を忘れたヒトという種」に対して強い問題意識を持っていることを理解する。
4		・筆者の主張と関連する具体例について考える。 ・わかりやすい言葉で説明する。 ・筆者の主張とSDGsとの関連に気づく	「国家間のエゴ」や「効率思考」によって生物多様性が失われてしまった例について調べてきた内容を話し合う。 ・筆者の主張とSDGsとの関連について考察する。
地球規模の課題について書かれた評論 「生物多様性とは何か」 福岡伸一			
	プレゼンテーションについて学ぶ。	・効果的なプレゼンテーションについて学ぶ。	・「プレゼンテーション」について学ぶ。 ・17のグローバル目標に関連する「問題」を設定し(自身が問題と考える現象がどの

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

			目標に関連するか勘案し)その内容をプレゼンテーションする準備をする。
5	自身が発見した課題についてプレゼンテーションする。	・自身の問題意識が「SDGs」のどの分野に該当するのかを踏まえたうえで、効果的な言葉で自身の意見を表明する。 ・話し手がどのような問題意識を持っているのかメモをし、正確に理解する。 ・プレゼンの内容を①影響力(他者への貢献)②内容③声の大きさ④パフォーマンス⑤説得力という評価基準で相互に評価する。	- ルーティン(3分) - 単元の振り返り及び本時の目標の確認(5分) - グループ(3人)でプレゼンテーションし合う(10分) - 教室内で最低2人にプレゼンテーションする(15分) - クロストーク(5分) - クロストークで出た「課題」についてグループで掘り下げる(5分) - 本時及び単元のまとめ(5分) - 本時の振り返り(5分)
6 ～ 7	全員の前でプレゼンテーションする	・クラスメイトの問題意識を共有する ・全体に伝わるプレゼンテーションをする。 ・本単元の振り返り	・SDGsと関連した自身のテーマを全体に発表し、相互評価する ・本単元を振り返り、まとめとして文章にする ・発表する

7 授業事例の紹介

小単元名【 他者に貢献するプレゼンテーションをしよう ～SDGsと課題発見～ 】

(1) 指導案

(ア)実施日時 10月14日(金)第4限

(イ)実施会場 1年4組教室

(ウ)本時の目標

- ① 他者に貢献するプレゼンテーションをしよう。
- ② 相手のプレゼンテーションを傾聴し的確に評価しよう。
- ③ 自身の変容を言語化しよう。

(エ)指導のポイント

- ・初めてのプレゼンテーションを円滑にできるような環境づくりをする
- ・国際的な問題に興味を持ち、その興味と自身の学びとを繋げていくきっかけになるような指導をする。
- ・自身の気づき、変容を言語化できるよう、スライド、話し合い活動を入れて工夫する。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
-------	------	------	------	---------	-------------------

3分	ルーティン	古典文法事項の確認	一斉	緊張感を持って取り組ませる。	
5分	導入	単元の振り返り及び本時の目標確認		前回までの授業で用いたスライドを使用し学習内容を振りかえらせるとともに、本時の課題を明確に理解させる	本時の目標を理解しようとしている。国際的な課題(SDGs)について理解している。

現代の社会
グローバル化 価値観の多様化
貧困 紛争 テロ 変化の加速
IOT化 シンギュラリティ
少子高齢化

**課題を発見出来る人
学び続けられる人**

課題を発見する姿勢の獲得

課題発見なくして解決なし！

①課題・問題を発見し、調査してみよう

↓

②グローバル目標(SDGs)との繋がりを意識してみよう

↓

③プレゼンテーションしてみよう。

↑本時

15分	グループ内プレゼン	グループ内(3人)でプレゼンテーション2分、相互評価2分を行う。 ※この活動ではメモを取りながら聞く。 「自分の発見した課題を他者に伝える。(その課題と国際的な課題(SDGs)との関連を意識する)」	班	時間管理を行い、適宜机間指導を行う 「話し言葉」でのプレゼンテーションを指導する。	・5項目(①影響力(他者への貢献)②内容③声の大きさ④パフォーマンス⑤説得力)の基準を意識してプレゼンテーションに取り組んでいる。
-----	-----------	---	---	--	---

プレゼンテーションとは、「贈る・差し出す」という意味の「present」が語源であることからわかるように、単なる情報伝達ではなく、「相手(聞き手)にメリットを与える」ことでなければなりません。「相手(聞き手)の心を動かし、行動を起こさせる」ことがプレゼンテーションの目的です。

①影響力(変容→他者への貢献)

書き言葉＝文字

↑↓

話し言葉＝声

消えてしまう

② パワーワード

15分	教室内プレゼン	教室内で最低2人にプレゼンテーションし、評価してもらう。(「学び合い」方式)	全体	手持無沙汰な生徒はいないか、対話に参加できない生徒に対するフォロー。	・効果的な言葉を用い、他者に自身の意見を伝えている。 ・メモを取りながら傾聴している。 ・積極的に相互評価を行っている。
5分	全体共有	数名の生徒に全体にプレゼンテーションしてもらい、内容について各班で掘り下げる。	一斉	拍手で終わらず、グループ内で深められるよう注意する。	・積極的にプレゼンテーションしている。 ・傾聴し的確に評価している。
10分	まとめ・振り返り	本時及び単元のまとめ・振り返り			自身の変容、気づきについて明確に言語化している

(2) 授業の振り返り

コミュニケーションが苦手な生徒も多い中で、クラス全員が2人以上に自身の意見をプレゼンテーショ

と少しでも良くなることをしたい。そのために、今この世界のことをもっと知っていかなければならないと思う。だから一生懸命勉強して大学に行って、何かを変えられる人になりたい。

・自分にできることなんて見つけれないと思っていたが、それは見て見ないふりをしているだけなのだと気づかされた。

・いろいろな人のプレゼンを聞く中で、現状把握から問題発見の段階にステップアップできた。また、意識をもって生活すれば目標達成に近づくことができるということに気づいた。様々な切り口からSDGsの目標について考えることが出来、少し進化出来たなと思う。なんのために国語を学ぶのか分かった気がする。

・「知る」ということは先進国に生きる人間の義務だと思った。

予想を超えた反応、変化が見られ、授業者として身の引き締まる思いがした。ここで得た気づきを実際に行動に移せるような実践、また自身のキャリア形成意識につなげる実践に挑み、国際人として生き抜いていける力、国際社会に貢献しようと思う志を獲得できるようサポートしていきたい。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

派遣前からJICA主催のエッセーコンテストに全員で応募し、国際的課題に対する興味関心喚起を行ってきた。タイでの研修を通して最も生徒に獲得させたいと思ったのは、グローバルな課題意識と表現力、発信力であった。学習を通して、自らの進路やキャリアをグローバル社会とのかかわりの中で見つけようとする姿勢を獲得できるような授業構想を練った。具体的には「課題を発見する力を養う」「国際的な視点から物事を考える」「他者に伝わる表現方法を考える」という目標を設置した。(P)コミュニケーションが苦手な生徒への対応に苦慮したが AL の手法の一つである「学び合い」を取り入れ、クラスで相互にサポートし合えるよう工夫をして、プレゼンテーションの相互評価という授業を行った。(D)振り返りの記述やその後の授業の中で、自身の学びに対する誇りであるとか、使命感というものがうかがえた。理数科クラスであり元々国語に対して苦手意識を持つものも多く、他クラスよりも1単位授業数が少ない中、前回の模試と比較すると偏差値が5ポイントも上昇した。特に評論文の得点率上昇は目覚ましく、苦手としていた国語に対する向き合い方も大きく変わった。(生物、世界史の先生方と相互協力できたことも大きい)(C)ただし、教科内での実践であるため、ODAであるとかJICAの取り組み、発展途上国における具体的課題といった内容への踏み込みはまだ足りないので、今後、そういった機会を提示できるようにしたい。(A)

10 教師海外研修に参加して

私は「幸せでいるための国語力とは」「生存率を上げるための国語力とは」というテーマを持って教職に就き、実践を行って来たが「拡大や成長は必ずしも個人の幸せと結びつかない」「転換期を迎えている現代社会での幸せな人生とは何か」といった、根本的な問いも常に孕んでいる日々であった。そんな中で、タイでの10日間の研修の機会を得、無償資金協力、有償資金協力、技術開発プロジェクト等、様々な現場を視察し日本の国際協力、貢献の現状を学び、スラムで暮らす人々の生活に直接触れる機会を得ることができたことで、さまざまな示唆を得られた。また国際協力の現場で活躍している日本人や現地の方々、チームメンバーと出会い、想いや意見、経験を共有することで、観光では得られない深い学びを得られ、教員として、一人の人間としてこれからどのように生きていくべきか考える契機となった。

中でも、タイでの日々の中で、平均的な日本人のもつ教養・能力やモラルの高さ、そしてその層の厚さは圧倒的な強みであることを実感した。そして勤務校の生徒のような、自身の進路に対して前向きな生徒たちに、グローバルリーダーとしての矜持心を育むことができれば、世界はより良い方向に変わるかもしれない、そんな希望を強く持った。資本主義は近代で最もうまくいったシステムだが、そのために、現在、大規模な経済破綻や格差の拡大といった政治的な問題も生じている。持続可能な社会実現するためには全く新しいイノベーションを起こすことが必須であり、全世界的な喫緊の課題といえるだろう。この研修を通して、志を持ち、国際的な視点で物事を考え、他者と協働的に問題を解決し、イノベーションを起こしていけるような生徒を育てたいという気持ちを強くした。得られた機会に感謝し、日々真摯に教育活動を行っていく所存である。